


砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

 鳥取医療センター

発行責任者：下田 光太郎

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

トピックス

1. 新年のごあいさつ
2. 「第2回鳥取医療センター病院フェスタ」開催
3. 神経・筋(神経内科)基本診療スキルアップ研修
4. 第68回国立病院総合医学会の受賞者紹介
5. 重心病棟渡り廊下の壁画作成について
6. 鳥取大学地域医療体験について



平成27年 新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

新年を迎え皆様それぞれに誓いを新たにされたことと思います。

さて本年は当院が統合新病院鳥取医療センターとなって十年の節目の年となります。そこで当院の歩みとこれから当院が果たすべき役割を考えてみたいと思います。ご存知の様に当院の前身は国府町岩倉にあった国立療養所鳥取病院と鳥取市三津の国立療養所西鳥取病院です。鳥取病院は中国地方における国の精神基幹病院として、また鳥取県東部の精神救急ならびに地域精神医療の中心的な病院としてその役割を担ってきました。一方西鳥取病院は結核医療、重症心身障害児者医療、難病医療等の専門病院として、所謂セーフティーネット系の入院医療を中心に行ってきました。両病院の地域における役割はそれぞれ異なっていたのですが、全国的な国立病院療養所再編計画の中で、距離的に非常に近い事等から国の方針により両病院の統合が平成13年に決定されました。両病院は平成16年に独立行政法人国立病院機構となった後の平成17年7月1日に統合され鳥取医療センターとなりました。統合前に両病院が持っていた診療機能はそのまま継続され現在に至っています。その後新たに、厚生労働省や国立病院機構の方針により精神セーフティーネット系医療である医療観察法医療が平成22年より導入され、また地域に不足していた回復期リハビリテーション医療が平成24年より運用開始となりました。また地域における画像センターの役割を果たし、さらに昨年より“ものわれ診療”が診療科や職種を超えた形で開始されました。この様に当院はセーフティーネット系医療と高齢化社会に対応した地域密着型医療を提供する事が今後さらに求められます。この方向性は国の医療政策やそれに基づいた診療報酬改訂等からさらに強まる事が予想されます。これからは地域に必要とされる医療を先取りし、地域の人々に信頼される医療の提供に努める事が求められます。新年にあたり、当院の地域において果たすべき役割をさらに充実させて、地域の人々から信頼される医療の提供に職員一同心を一にして努力したいと思います。

本年が当院にとって更なる発展の年になり、また皆様にとって素晴らしい年となる事を祈念いたします。



鳥取医療センター 院長
下田 光太郎

●「第2回鳥取医療センター病院フェスタ」を開催しました●

実行委員長 事務部長 門田 陽一郎



平成26年11月5日、昨年に引き続き2回目の病院フェスタを開催しました。平成24年までは重心部門と精神科部門に分かれてイベントを開催していましたが、平成25年は看護部長の提案により両部門合同で「第1回病院フェスタ」を開催しました。平成25年は10月2日に開催し晴れ渡る秋空に恵まれたのですが、最近の異常気象のせいか屋外ステージ前は夏のような暑さになり、屋外イベントの後半は患者さんが日陰の方に移動してしまってステージ前から患者さんがいなくなってしまうと。そこで今回は入院患者さんに配慮し11月開催でメイン会場を重心病棟の大会議室にしたのですが、これが裏目に出て、来場者がすし詰め状態となってしまうと昨年と違った意味で暑いイベント会場となってしまいました。来年に向けての反省点です。イベント企画は、当院保育園児の歌、ボランティアの皆さんによるオカリナ演奏、出前かっこ館(ミニふれあい水槽)、ゲーム、カラオケ大会、職場紹介、リハビリ用品(車椅子、クッション等)の展示、保育

所バザー、ゆるキャラの病棟訪問などでした。企画内容については「保育園児の歌は会場がとても盛り上がって良かった」「オカリナ演奏は来場者も一緒に歌うなど和やかな雰囲気となり良かった」などの感想をいただきました。

来年は今回の反省点を踏まえイベント企画をさらに充実させ、入院患者さんご家族、外来患者さん、ボランティアさん、地域の皆さん、そして職員にも楽しんでいただけるような「鳥取医療センター病院フェスタ」にして当院をPRしていきたいと思っております。最後になりましたが、ご協力いただいたボランティアの皆様、職員に厚くお礼申し上げます。



○ 神経・筋(神経内科)基本診療スキルアップ研修を開催して ○

統括診療部長 井上 一彦



国立病院機構では医師向けの教育研修事業のひとつとして初期研修医や後期臨床研修医を対象とした「良質な医師を育てる研修」が2010年から行われています。全国の機構病院のネットワークを駆使して専門医・指導医による実地教育研修をおこなうことで全人的医療ができる「良質な医師」を育成することが目的です。そのためにいろいろな診療科領域の研修が企画されており、神経内科部門としては入門、基本診療スキルアップ、アドバンス研修があります。本年、当院が神経・筋(神経内科)基本診療スキルアップ研修を担当させていただくことになり、平成26年10月2日(木)、3日(金)に鳥取医療センターで研修会が行われました。

20名程度の受講募集に対して北は仙台、南は熊本まで全国各地から28名の応募がありました。受講者の今後の希望進路をお聞きしたところ、神経内科以外を希望している医師が多いように思えました。少数ながら既に神経内科を目指している医師、脳血管センターに勤務している医師もおられました。受講の動機としては、神経内科を基本から系統的に学んでいないので

の機会に研修を受けてみたい、認知症について学びたい、リハビリの企画があったからなど様々でした。

講師陣として当院のスタッフだけでなく、東埼玉病院の川井充先生、徳島病院の足立克仁先生、橋口修二先生、柳井医療センターの宮地隆史先生、南岡山医療センターの坂井研一先生、箱根病院の阿部達哉先生、鳥取大学医学部の浦上克哉先生の御援助をいただきました。おかげさまで質の高い研修になったと考えております。

研修内容は神経学的診察法の実習、症例検討、認知症、筋ジストロフィー、リハビリ、電気生理検査の実践、画像検討会など多岐にわたりました。単なる講義形式だけではなく、自ら考えて質疑応答をしたり、器具に触れて操作してみたりする参加型の研修をもちこむように配慮しました。

研修初日の夜、懇親会をおこないました。受講者それぞれの医療に対する思い、勤務病院の状況、出身地自慢、講師からの体験談や就職勧誘、受講者同士の連絡先交換などわきあいあいとした会でした。他施設との情報交換が気楽にできる環境は機構というネットワークならではの利点であると改めて感じました。

研修会を開催してよかったこととして、病院外の人との交流ができたことがあげられると思います。機構本部の研修担当の皆様や他院医師との関わりを通じて当院の職員も勉強できました。さらに病院内では職員同士の団結心が培われたのではないのでしょうか。

最後に、受講者の中から多くの医師が機構病院に残り、さらには神経内科を専攻されることを期待します。



○ 促通反復療法実習を受講して(促通反復療法紹介) ○

リハビリテーション科 理学療法士 大河原 隆二
作業療法士 中 島 直



平成26年10月6日～10月17日の12日間、促通反復療法の習得を目的に鹿児島県の霧島リハビリテーションセンターへ行かせて頂きました。

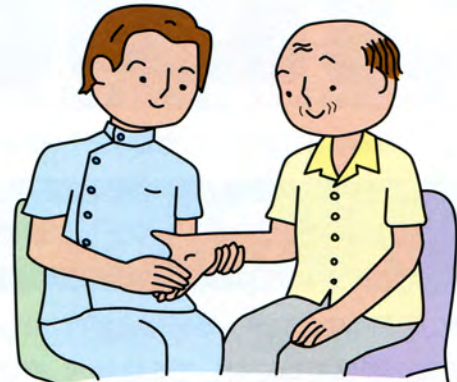
促通反復療法とは、川平和美教授が考案した手技であり「川平法」とも呼ばれNHKで放送されるなど全国的に注目を集めています。この手技は施術者が身体の各部をさすって刺激しながら、こわばって動かない指や手足を1本ずつ曲げたり伸ばしたりすることで、楽に動かすことができるようになりますと言われています。

霧島リハビリテーションセンターでは治すことを諦めかけていた患者さんの手足が動かしやすくなることにより、表情が日に日に明るくなる場面を研修中に目の当たりにしました。その様子から、促通反復療

法の治療効果が患者さんの機能改善に大きく貢献できると感じることができました。



川平教授をはじめ、スタッフの方々の指導により習得した促通反復療法を今後のリハビリテーションに活かし、当院でも患者さんの笑顔がみえるよう努力していきたいと思えます。



○ 平成26年度アルコール依存症臨床医等研修に参加して ○

精神科デイケア 作業療法士 南 庄 一 郎



平成26年10月21日から24日まで、私は神奈川県横須賀市の国立病院機構久里浜医療センターにおいて開催され

た「平成26年度アルコール依存症臨床医等研修」に参加させて頂きました。本研修会はアルコール依存症の詳細な医学的講義に始まり、アルコール依存症の集団認知行動療法、アルコール依存症者のケースワークや作業療法など、非常に多岐にわたる幅広い講義・実習で構成されていました。

私がこの研修会に参加を希望した背景には、当院・

医療観察法病棟にてアルコール問題を抱えた統合失調症患者への関わりから“私にもっとアルコール依存症に関する知識があれば、より良いケアを提供できたのではないかと痛切に感じた経験があります。医療観察法の対象者を俯瞰すると、その背景には深刻な薬物・アルコール問題の影響があることが報告されています。私は今回の研修での学びを振り返り、日々の臨床に活かせるように努めていきたいと考えております。そして当院の精神科医療に、また患者さんのより良い生活の質向上に貢献できるよう日々の精進を重ねていきたいと思えます。



第68回国立病院総合医学会の受賞者紹介

療育指導室 児童指導員 二宮 周子

この度、国立総合医学会のポスターセッションの中で「呼吸器装着重症児(者)におけるチーム療育の実践」という演題で発表させていただきました。

重症心身障害児者にとって病院は医療の場であると同時に生活の場です。一日のほとんどの時間を限られた空間の中で過ごす中で、患者さん一人ひとりの生きがいや、笑顔になる瞬間を一緒に作っていくことは私たちの大切な役目の一つだと感じています。この役目を少しでも果たそうと実践してみたのが「チーム療育」でした。これは、個人の持つ可能性の最大限を引き出せるよう、本人・家族及び本人に関する全ての職

種の連携で行う療育のことです。これにより、今までベッドサイドでの療育活動が中心だった呼吸器装着重症児者の活動の幅(場所や提供時間など)は大きく広がる結果となりました。



今回幸いにも賞を頂くこととなりましたが、これもチーム療育を実践してきた沢山の職員の努力による結果と感じています。今後も沢山の可能性を実現していけることができるよう努めていきたいと思ひます。

診療情報管理室からのお願い

診療情報管理室 診療情報管理係 森田 玲奈

入院基本料を算定するためには、入院診療計画、院内感染防止対策、医療安全管理体制、褥瘡対策及び栄養管理体制について、定められた基準を満たす必要があります。そこで、昨年の7月に設置された診療情報管理室では以下の3つの基準に基づいて、適切に診療計画が作成されているかのチェックを行っています。

- ①入院診療計画の基準…入院の際に、医師・看護師・その他関係職種が共同して総合的な診療計画を策定し、患者さんに対し文書により入院後7日以内に説明を行う。
- ②褥瘡対策の基準…日常生活の自立度が低い入院患者さんにつき、専任の医師及び専任の看護職員が適切な褥瘡対策の診療計画の作成・実施及び評

価を行う。

- ③栄養管理体制の基準…入院時に患者さんの栄養状態を医師・看護職員・管理栄養士が共同して確認し、特別な栄養管理が必要と判断される患者さんについて、栄養状態・摂食機能及び食形態を考慮した栄養管理計画を作成する。



これらの診療計画は入院基本料の算定に関わるだけでなく、関係職種が連携して作成し実施することによって、患者さんに最適な医療を提供することにもつながりますので、関係職種は適切かつ迅速な策定をお願い致します。

入院診療計画書

褥瘡対策に関する診療計画書

栄養管理計画書

● 重心病棟渡り廊下の壁画作成について ●

—壁画作成委員会からの中間報告—

壁画作成委員会委員長 看護部長 山根 美子



デザイン案①

新病棟開棟当初からの懸案事項でありました壁画の作成について、ほぼ図案がまとまり本年早々から描画工事に入る運びとなりました。長い間、お待たせしました皆様にお詫びとご報告をいたします。

壁画作成委員会は、院長の命を受け、井上統括診療部長、赤星小児科医長、川村企画課長、前田主任児童指導員、元林副看護部長、国森看護師長、河場看護師長、岡本看護師長、親の会代表の方で構成し、検討をすすめてきました。コンセプト、テーマ、キーワードを以下のようにまとめ、壁画の範囲を渡り廊下だけでなくエ

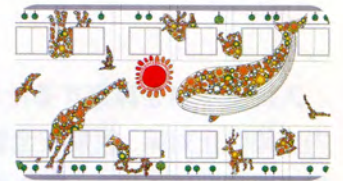
レベーターホールまで含めることにしました。

<コンセプト>重心病棟の患者さんにとって、病院は医療の場であり、生活の場であり、社会そのものです。患者さんとご家族の安心と信頼を得て、安全でかつ笑顔が生まれる療養環境を提供することは、病院スタッフの使命であり、願いです。検査に出かける時、散歩に出かける時、行事に出かける時、ホールや廊下の壁画のある場所で、何かを見つけて、喜び・驚き・触れて、笑顔が生まれることを願います。

<テーマ> 「花と太陽、乗り物や動物たち」・・・少々欲張っています。

<キーワード> 「楽しい」「笑顔」「見つける」「触る」「変化(あきない)」

以上のことを実現するために、地域のつながりで紹介頂いた日本行動美術協会会員の細川氏に依頼し、図案と構成がまとまりました。今年度中に完成するよう作業計画を立て進めて参ります。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。そして楽しみにお待ちくださいませ。



デザイン案②

○ 職場紹介 ～3病棟～ ○

看護師長 国森 佳子



3病棟は、平成24年5月より重症心身障がい児(者)病棟50床で、重度の知的障害と肢体不自由を併せもち、日常的に高度な医療ケア(人工呼吸ケア・呼吸ケア・経管栄養など)が必要な47名(4歳～69歳)の方が病棟で入院生活を送っています。患者さんは、自力での離床は困難でベッド上で多くの時間を過ごします。関わりが少ないと患者さんは、表情乏しく活気もありません。そこで、療養生活に変化や楽しさを感じてもらうよう平成25年4月から多職種(看護師・療養介助専門員・保育士・児童指導員・理学療法士)で3回/週45分間の病棟内療育活動を開始しました。すると、車椅子でディルームに集まった患者さんの「笑顔」がいっぱい見られるようになりました。

今年、配置となった新人看護師に療育についての感想を聞いてみました。

『初めて参加した時は保育士さんが療育を行い、看護師は患者さんの観察や吸引などの医療行為を行うために付き添っていると思っていました。しかし、実際は一緒に花を作ったり、ゲームをしたりと、看護師も共に楽しさを分かち合うことが大切であると感じるようになりました。患者さんの笑顔をたくさん引き出していきたいと思います。』

ホームページをのぞいて見て下さい。



○ 職場紹介 ～4病棟～ ○

看護師長 河場 由紀子

4病棟は、55床の重症心身障がい児(者)病棟です。病棟のデイルームからは、日本海や鳥取空港が一望でき、明るい雰囲気、患者さん・職員にとっても癒されます。移転と同時に、病棟の機能も特化され、当病棟は、日常生活支援と療育支援を必要とする患者さんが主体となりました。患者さんの今の持てる力を維持し、生活支援・療育活動を中心に看護師、療養介助専門員、療育指導員、保育士、リハビリスタッフなどが専門性を発揮しながら多職種チームで協働し支援を



チームワークは
バッチリ!

行っています。また、嚥下機能が低下している患者さんには、摂食嚥下障害看護認定看護師とも連携を図りながら、食べる楽



しみが少しでも維持できるように摂食機能訓練を実施しています。学童児には、養護学校の授業や行事に参加できるように教員と情報交換し、健康管理に努めています。多くの患者さんは、幼少期より長期に入院しており、職員も家族のように愛情をもって看護しています。先日も「成人を祝う会」が盛大に行われ、病棟スタッフ全員でメッセージカードを作り、お祝いに花を添えました。また、季節ごとの面会日には、御家族と楽しく過ごせるイベントをスタッフ一同で準備し、踊りや歌で楽しいひと時を過ごしています。患者さんや御家族の笑顔に私達も嬉しく思います。

これからも一人ひとりの患者さんや御家族の想いに寄り添いながら、優しく暖かい看護を提供します。

○ 職場紹介 ～5病棟～ ○

看護師長 岡本 聖子



5病棟は、重症心身障がい児(者)病棟です。病床は55床で現在は54名の入院患者さんと短期入所患者さんを受けいています。

私たちは、重度の障害を持ち、在宅での生活が難しい高度ケアと健康管理が必要な患者さんに今ある身体機能を最大限活かしてその人らしさを尊重し、楽しく笑顔になれるような看護を行っています。療育活動

を通して、患者さん同士がふれあう楽しみや季節感を感じることができるように行事も行っています。隔月に行っている誕生会では患者さんひとりひとりへメッセージを伝えています。日々健康に過ごすことができていることを伝え一緒に喜んでいきます。七夕、クリスマス会は児童指導員、保育士、理学療法士とも協力して行い患者さんやご家族の方から好評の声をいただいています。何よりこのようななかかわりの中で見ることのできる患者さんの笑顔に私たちは元気をもらっています。

これからも患者さんの笑顔を大切にしながら看護が提供できるよう頑張っていきたいと思っています。



○ 職場紹介 ～地域医療連携室～ ○

地域医療連携係長 清水 須美子

地域医療連携室は医師、看護師、医療社会事業専門員、事務職の多職種で構成されており、総勢16名が在籍しており、業務は多岐にわたっています。

まず、紹介・逆紹介業務を中心とした受診予約や転院依頼への対応、もの忘れ外来の初診時の対応など、地域の医療機関との連携窓口としての活動をしています。次に、広報活動や医療情報の提供といった業務を行っており、当院のPR活動の為の挨拶回りや、地域の医療機関や訪問看護ステーションへの研修会案内なども地域医療連携室の大きな役割となっています。

入院患者さんに対しては、患者さんやご家族の希望

を確認し、院内のスタッフや地域の福祉関係者や行政機関と連携を取りながら、自宅や施設入所等希望に沿った場所へ退院できるよう関わっています。また、院内の患者相談窓口として、入院中の患者さんの相談はもとより、外来患者さんやご家族からの受診に関する相談や福祉サービスの利用について、障害手帳や年金等の公費制度や各種社会制度に関する相談等様々な相談に対応しています。

その他にも、精神科訪問看護やAOT（積極的訪問チーム）で、精神科患者さんの地域生活の支援を行っています。平成26年10月から指定特定相談支援事業所が地域医療連携室内に設置され、重症心身障がい者の計画相談にも対応しているところです。



面談中



公費制度の説明を行っています



精神科訪問看護に出かけてます

○ 職場紹介 ～心理部門～ ○

主任心理療法士 田中 聡子

精神科心理部門には現在5名の心理療法士が在籍しており、精神科内だけでなく時には精神科以外の多職種とも連携しながら、さまざまな仕事を担当しています。どのような業務に携わっているかといいますと、まずは、外来・入院患者さんに対する心理検査や

心理面接を行っています。2014年10月からは新しく開設されたもの忘れ外来での心理検査も担当するようになりました。その他、精神科デイケア、AOT、(Assertive

Outreach Team; 積極的訪問チーム)、アルコール依存症の治療グループ、医療観察法病棟における心理治療などを多職種チームの一員として担っています。この

ように、いくつかの異なる領域で仕事をしている心理療法士ですが、患者さんが直面している問題や希望を聴きながら、患者さんご自身が問題を解決したり困難に対処したりできるように支援していく、という姿勢はどの領域においても共通しているといえます。患者さんの声にじっくりと耳を傾けられる懐の深い心理療法士を目指して日々励んでまいりたいと思います。



○ 新職員ご挨拶 ○

- ①氏名 ②職場・職名 ③出身地
④趣味・スポーツ等 ⑤ひと言

- ①山瀬 いづみ ②看護部長室
③鳥取市 ④温泉めぐり
⑤初めての環境に日々あたふたしていますが、持ち前の“元気”で一日も早く馴染むことができるよう頑張りますので、よろしくお願いします。



● 鳥取大学地域医療体験について ●

診療部長 齋藤潤

平成24年より、鳥取大学地域医療学講座の要請で地域医療体験実習を行っています。医学科4年生が「地域医療の現場で、患者・住民がどのようにケアされているか、そこで医療者はどのような役割を果たしているか」を自身の目で見、考えることを目標としたカリキュラムで、26年度は鳥取県下の基幹病院、自治体病院、開業医など48医療施設が協力しています。鳥取医療センターにも、10月中旬から11月中旬の水曜日に、毎回2～3名の学生が訪問しています。オリエンテーションののち、臨床研究部、地域連携、神経難病、結核、重心、精神科(担当小西、齋藤、土居、山本、赤星、助川医師)を約1時間ずつ見学してもらっています。昼食と見学終了後のまとめのときの感想では、当センター

が他院にない特徴を備えているため、学生の感銘は深いようです。この人たちの中から、当センター・国立病院機構で勤務を希望される人が出てくることを望んでいます。病棟はじめスタッフの皆様にはご協力を、今後ともよろしくお願いたします。



● 連携病院ご紹介 ●

— よしだ内科医院 —



平成3年湖山北地区に開業し23年が経過しました。鳥取県立中央病院時代は神経内科・循環器内科・救急病棟担当として働いておりましたので、血管障害の患者さんが中心でした。

当時は、特に脳血管障害で後遺症を残した人の受け皿となる医療機関が乏しく、ベッド回転の為退院して頂くのに苦労していました。在宅での医療・介護を行わざるを得ない時代でしたので、往診・訪問を行うことも開業した動機の一つでした。

現在は介護保険も整備され受け入れ機関も徐々に増え、患者さんにとって良い時代となりました。その中でも鳥取医療センターの存在は、東部地区では神経内科専門の回復期リハビリ病院として最も重要で、当

院の患者さんも大変お世話になっています。今後ともよろしくお願申し上げます。

出来れば、精神科救急病院としての機能も更に充実して頂ければ大変ありがたいです。

(よしだ内科医院 院長 吉田 真人)

※よしだ内科医院

住所 〒680-0941

鳥取市湖山町北6丁目448-1

電話 0857-31-1118

FAX 0857-31-1181

e-mail mknet122@topaz.ocn.ne.jp

外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成27年1月1日現在

		月	火	水	木	金	
内科	循環器	松本		松本	松本	松本	
	呼吸器	山本	山本	山本			
小児科		中野	小松	赤星	中野	赤星	
	専門外来 (予約制)	発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野 関			
神経内科	1	高橋	齋藤 (てんかん)	井上	金藤	土居充	
	2	下田	下田	金藤 (嚔下外来)	土居充	房安	
	3	小西		齋藤	小西 (井上)		
	4	房安		北川	三島		
	5			田中			
	専門外来 (予約制)	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 嚔下障害 てんかん	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	
もの忘れ外来		高橋 (午後)		下田 (午前)		小西 (午前)	
精神科	初診	診察室1	坂本	休診	助川	兼子	板倉
	完全予約制ですので事前の予約が必要です。						
	再診	診察室1		助川		兼子	板倉
		診察室2		坂本	土井清	助川	坂本
		診察室3		岩田		幡	土井清
		診察室5		池成		高田	柏木
		診察室6					林
診察室8							
専門外来 (予約制)				睡眠外来 坂本・高田			
外科		古澤	古澤	古澤	古澤	古澤	
整形外科 (隔週：8:30~13:00)			市立病院 医師				
リハビリ入院相談 (13:00~15:00)	地域医療連携室	齋藤	齋藤	齋藤	齋藤	齋藤	

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆電話 0857-59-1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分~午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分~午後3時00分(睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ホームページ <http://tottori-iryō.jp/>
- ◆地域医療連携室 TEL 0857-59-1111 (内線275) FAX 0857-59-0713